

令和6年度 『地域活性化先進事例勉強会』 報告資料

大学・地域共創プラットフォーム香川
地域活性化部会

事業概要

- 地域活性化に係る先進事例のポイント等を学び、県内各地域への横展開を図ることを目的として、先進事例の視察を実施。

進め方

- 地域活性化部会内にWGを設置し、テーマ等を議論。
WGメンバー：香川県・善通寺市・三豊市・観音寺市・多度津町・まんのう町
- 人口減少が各市町における共通かつ喫緊の課題であること、全国的な人口減少の中、住んでいなくても特定の地域との関わりを持ち、課題解決に貢献する「関係人口」をテーマに設定。
- 全国の先進事例から、「大学との連携」、「関係人口との継続的なつながり」という視点で、兵庫県洲本市と愛媛県西条市を視察地として選定。

兵庫県 洲本市

課題

市内・淡路島内に総合大学がなく、高校卒業後、若者の多くが進学や就職で島外へ。島外へ流出した若者の多くは戻って来ず、活力と賑わいが低下。

取組み

多くの大学との継続的な連携による まちづくり（域学連携事業）を実践。

成果

学生時代に洲本市で研究を行った学生が大学教員となり、新たな学生とともに研究を続けるなど、関係人口増加の好循環が生まれている。

域学連携とは・・・

大学生と大学教員が地域の現場に入り、地域の住民等とともに地域課題の解決や地域づくりに継続的に取り組む

先進事例勉強会 IN 洲本市 ～大学と連携した“おもしろい”関係人口づくり～

開催日：令和6年9月17日（火）

参加者：26名

内 容：①洲本市担当者・域学連携関係者による講演
②質疑応答・意見交換
③学生滞在拠点視察



市の役割

- 学生の交通費を補助。
- 滞在拠点が市内に4か所あり、一度に約50人が無料で滞在可能。
- 大学の実施したいことを聞き取り、地域とマッチング。
- 結果として、大学側から連携のオファーが舞い込むようになった。

交通・宿泊に関する補助・施設や
地域とのパイプが重要

マッチングに係るポイント

- 地域にちゃんとしたリーダーがいることが重要。
- 市の担当者が農政を担当していた経緯で、地域のキーパーソンと繋がりが強い。
- 地域おこし協力隊や民間企業などの中間支援団体が大学と地域の間で上手くコーディネート。
- おもしろいことをまずはやってみる。非計画的な成果につながることもある。

行政・地域における
リーダーの存在が重要

大学との連携に係るポイント

- 大学は研究機関であることが前提。
- 学生が全てを解決するわけではない。
- 事業目的に応じた付き合い方を選ぶべき。
- すぐに結果が出ることはない。評価軸を関係者間で合わせるべき（評価軸の例：地域づくり、関係づくり、対外的ブランディング）
- 取組みをやめる勇気も必要。

大学・地域それぞれの
目的に合った
取組み内容と評価軸が必要

愛媛県 西条市

課題

- ・市内に高等教育機関がなく、高校卒業後、若者の多くが市外へ流出。
- ・市内外に西条市の魅力が伝わっていない。

取組み

- ・人口獲得の地域間競争勝ち残りを目指した移住施策の実施。
- ・シティプロモーション推進課を設置し、移住に特化したプロモーションを展開。
- ・LOVE SAIJOをキャッチコピーとしたファンクラブ運営。

成果

- ・人気移住地ランキング上位入選の常連。
- ・移住者の増加による将来人口推計の改善。
- ・市内外3,700人を超えるファンクラブ会員。

先進事例勉強会 IN 西条市 ～シティプロモーションによる継続的な関係人口づくり～

開催日：令和7年2月12日（水）

参加者：24名

内容：①西条市シティプロモーション推進課・移住推進課による講演
②質疑応答・意見交換



シティプロモーションの取組み

- ・ シティプロモーション戦略を策定
- ・ まずは西条市を認知してもらうために戦略的に「住みたい田舎ベストランキング」1位を獲得。
- ・ ランキング1位をフックに、ターゲットである関東・関西圏メディアを使ったPR実施。
- ・ 移住セミナー前にTV放送などの仕掛け。

目的・ターゲット・施策等における
一貫性が重要

移住の取組み

- ・ 雑誌社の移住施策に関するアンケート設問を参考にして施策を考案。
- ・ 市までの交通費や宿泊費、食費等が一切からない「完全オーダーメイド型無料移住体験ツアー」（年間10組）等の実施。
- ・ ツアーでは、先輩移住者等の地元の方と会ってもらい、移住を具体的にイメージしてもらう。

徹底した移住者目線での
施策展開が効果的

LOVE SAIJOの取組み

- ・ LOVE SAIJOキャッチコピーは誰でも使用可能。市職員や飲食店等スタッフがロゴ入りの服を着用。
- ・ インフルエンサーと連携し、フォロワーを増やした結果、市内高校等から、連携のオファーが来るようになった。
- ・ ファンクラブ等で市内外の会員が相互に情報発信し、交流が活発化。

情報発信・情報交換
プラットフォームの重要性